

1.6m幅メディア対応のエコソルベントインクジェットプリンタ「XpertJet 1641SR Pro」 高生産性、高画質のベストバランスモデル

MUTOH独自の「伝統」技術と「先進」技術の融合

オペレータの操作性向上と負荷を軽減させる工夫を施したプラットフォームを継承。
MUTOH独自の「伝統」技術「高精度アルミレール構造」と、三位一体となった「先進」
技術の融合により高精度・高画質印刷を可能にしています。



MUTOH独自の「伝統」技術
「高精度アルミレール構造」



三位一体の「先進」技術
「AccuFINE」「i-screen」「VerteLith」



XpertJet 1641SR Pro



屋内外のサイン、展示会のグラフィック、カーラッピング、POPなど、 さまざまな市場に最高品質の“Made in Japan Quality”をお届けします。

概要 (2022年6月28日現在)

商号	MUTOHホールディングス株式会社 (英文社名 MUTOH HOLDINGS CO., LTD.)	グループ事業内容	・情報画像関連機器 (大判インクジェットプリンタ・3Dプリンタ) の開発・製造・販売 ・情報サービス (CAD・システムソリューション、ソフトウェア) の開発 ・設計製図計測、制御機器の開発・製造・販売
設立	1952年 (昭和27年) 3月5日 (創業: 1942年 (昭和17年) 12月)	ホームページ	https://www.mutoh-hd.co.jp/
資本金	101億99百万円		
本社事務所	東京都世田谷区池尻三丁目1番3号 TEL: 03-6758-7100 (代)		

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	【株式に関する住所変更のお手続きについてのご照会】 証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。 証券会社の口座をご利用でない株主様は、左記の電話照会先までご連絡ください。なお、お手続き方法やよくあるご質問は、左記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認ください。
定時株主総会	毎年6月	【住所変更、単元未満株式の買取、買増等のお申出先について】 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
基準日 期末配当	毎年3月31日	【未払配当金の支払について】 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
中簡配当	毎年9月30日	【特別口座について】 株主電子化前「ほふり」(株式会社証券保管振替機構) を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社(特別口座)を開設しております。 特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。
公告方法	電子公告により当社ホームページに掲載 https://www.mutoh-hd.co.jp/ ※やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合には、「日本経済新聞」に公告いたします。	
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社	
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	
事務取扱場所 (郵便物送付先)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)	
インターネットホームページURL (よくあるご質問(FAQ))	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/ https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal	



MUTOHホールディングス株式会社

Business Report

2021年4月1日から2022年3月31日まで

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、2021年度(第73期)報告書をお届けし、当期の業績および当社グループにおける取り組みにつきまして、ご報告申し上げます。

MUTOHホールディングス株式会社
代表取締役社長 磯邊 泰彦



創立70周年を迎えて



MUTOHは、おかげさまで本年3月に創立70周年を迎えました。
永きにわたりステーキホルダーの皆様からご支援を賜り今日に至りましたことに、感謝申し上げます。
当社グループは、1942年12月に武藤と四郎が、現在の本社(世田谷区池尻)の近く三宿に武藤目盛彫刻研究所を創業したことから始まり(創業してからは80周年)、「モノづくりを支える」という精神はここからスタートしています。

10年後の1952年3月に株式会社武藤目盛彫刻を創立(会社組織化)、創業の精神を紡ぎ続けることで機械遺産にも登録された製図機器「ドラフター」や製図を印刷する機器「ペンプロッタ」などの商品を生み出しました。そして、今日もその創業の精神は連綿と引き継がれており、LFP製品はクリエイターやデザイナーを、設計・計測機器および3DPの製品は製造業や建築業など、モノづくりに携わる多くの方々を支えています。
今後もMUTOHの歴史を築き上げるために、一人ひとりお客様から信頼され、価値ある提案により「モノづくりに支える」という創業の精神(DNA)を受け継ぎ、「人と企業の創造を高める会社として、お客様のニーズや環境変化に柔軟に対応し、「安心」、「信頼」、「感動」を提供し、創立100年へ向け、新しい価値を創造し続けてまいります。

事業の経過および成果のご説明

2021年度(第73期)の業績および当社グループにおける取り組みにつきまして、ご報告申し上げます。

本年度における世界経済環境は、世界経済環境は、ワクチン接種の広まりとともに経済活動は回復傾向にあります。しかしながら、海上輸送におけるコンテナ不足、半導体を中心とした電子部品の不足などサプライチェーン問題の長期化に加えて、インフレ圧力の高まりから多くの国では政策金利の利上げを実施、更には、ロシアのウクライナ侵襲など、景気の先行き不安が急激に高まっております。

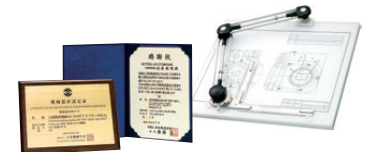
このような状況の中、当社グループは、開発・製造・販売の革新による収益性の改善、適正在庫運営、保有資産の圧縮、固定費の抜本的見直しなどキャッシュ・フローを重視した施策を推進してまいりました。さらにコロナ禍の長期化をにらみ、働き方改革に取り組みとともに、インターネットを活用した営業活動など、新常态下での新しい経営の姿を模索してまいりました。設計計測機器事業ならびに3Dプリンタ事業においては、同事業間の新たな連携により、CADから3D出力までのトータルサービスを提供する「教育機関向けMUTOHパッケージ」を商品化、デジタル化教育のニーズに応えるソリューションとして販売展開し、加えて、主力製品の製造を諏訪工場(長野県)に集約、品質・生産管理や調達の一元化・生産の標準化により、品質の向上、コストの削減に向け改革を推進しております。

一方、主力事業となる大判インクジェットプリンタ事業においては、新ヘッド搭載のエコソルベントインク対応の2機種(XpertJet 1341SR Pro、XpertJet 1641SR Pro)を2021年9月より順次世界市場に投入し、高画質・高スピードでコストパフォーマンスに優れたモデルとして高い評価を得ております。

また、2020年11月に市場投入した当社初の自社開発RIPソフトウェア(大判インクジェットプリンタへのデータ出力を行うソフトウェア)

日本機械学会「機械遺産」(機械遺産 第21号)

万能製図機械 「ドラフターMH-I」



日本初の設計製図機械「ドラフターMH-I」は、武藤工業株式会社の前身である「株式会社武藤目盛彫刻」創業者、武藤と四郎の手により1953(昭和28)年に誕生しました。

「VerteLith™」が、テキスト・画像処理における高いパフォーマンスに加えて、ユーザーのワークフロー全体を簡素化・効率化する機能が充実が評価され、他の専業および老舗ベンダーのRIPを抑え、2022年1月に欧州の印刷専門誌により構成されるEDP協会(European Digital Press Association)から部門毎に最高の評価を得たデジタル印刷関連の製品・技術に対して贈られた「EDP Award 2021」をワークフローテクノロジー部門において受賞いたしました。これを機に今後とも、ハードウェアのみならず、ソフトウェアによる差別化・付加価値創出に注力してまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は158億48百万円(前年同期比12.0%増)、営業利益は5億41百万円(前年同期は5億64百万円の損失)となり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた前年同期からは大幅に回復いたしました。

経常利益は、営業利益の回復に加え、持分法による投資利益の計上などにより7億43百万円(前年同期は2億91百万円の損失)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益に固定資産売却益6億79百万円の計上、特別損失に減損損失2億46百万円の計上、法人税等及び法人税等調整額の合計3億62百万円の計上などにより、7億73百万円(前年同期は12億円の損失)となりました。

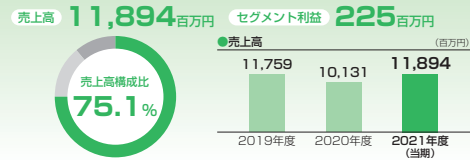
なお、2023年3月期の通期業績予想は、ロシアによるウクライナ侵襲、コロナ禍によるサプライヤーの部品供給問題や海上輸送遅延問題など、調達・生産・販売・物流の遅延や停滞、物価上昇リスクにさらされる中、当社グループは、継続的な増収と安定収益基盤の確立による通期営業利益の改善を最重要課題として事業構造改革に取り組んでまいります。

以上により、売上高1161億円、営業利益4億円、経常利益4億円、親会社株主に帰属する当期純利益1億円を見込んでおります。

皆様には、今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

事業セグメントの概況

情報画像関連機器事業



新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた前年同期からは大幅に回復しましたが、海上輸送を主とした物流コストの上昇、原材料高騰・部材供給課題が収益に影響を及ぼしました。事業全体では、売上高118億94百万円（前年同期比17.4%増）、セグメント利益2億25百万円（前年同期は6億59百万円の損失）となりました。

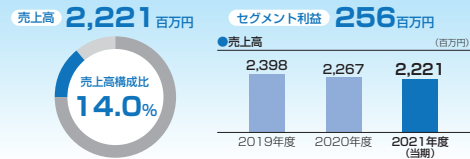
なお、各地域別の経営成績は以下のとおりです。

アジア地域: 売上高38億94百万円（前年同期比0.0%減）、セグメント利益2億44百万円（前年同期は4億99百万円の損失）となりました。

北アメリカ地域: 売上高30億89百万円（前年同期比19.7%増）、セグメント損失9百万円（前年同期は28百万円の利益）となりました。

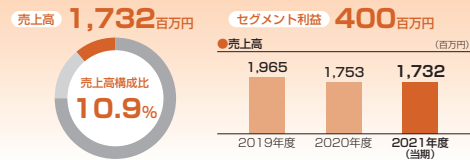
ヨーロッパ地域: 売上高49億10百万円（前年同期比34.4%増）、セグメント損失10百万円（前年同期は1億87百万円の損失）となりました。

情報サービス事業



新型コロナウイルス感染症の影響等から販売は微減となりましたが収益性の改善により大幅増益となり、売上高22億21百万円（前年同期比2.0%減）、セグメント利益2億56百万円（前年同期比69.9%増）となりました。

設計計測機器事業、不動産賃貸事業ならびにその他の事業



(設計計測機器事業)
情報サービス事業と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響等から販売は微減となりましたが収益性の改善により増益となり、売上高12億94百万円（前年同期比2.4%減）、セグメント利益2億43百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

(不動産賃貸事業)
所有不動産の一部を自社利用物件から賃貸物件へ転用したことにより増収となり、売上高2億1百万円（前年同期比11.8%増）、セグメント利益1億78百万円（前年同期比0.2%増）となりました。

(その他の事業)
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減収となり、売上高2億35百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント損失21百万円（前年同期は29百万円の損失）となりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

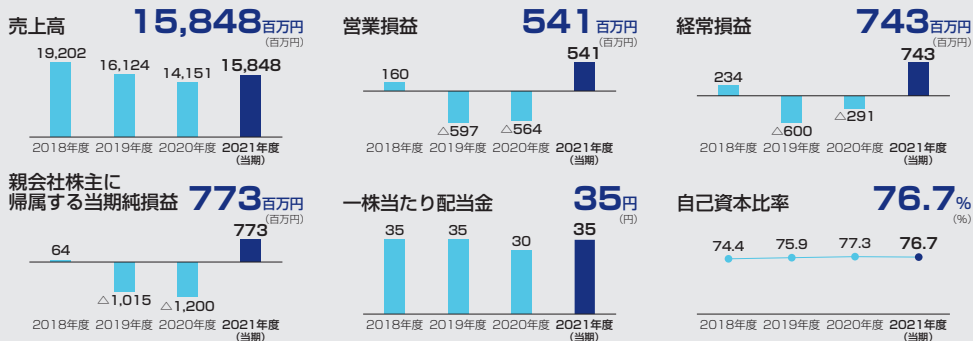
科目	当年度		前年度
	2022年3月31日現在	2021年3月31日現在	2021年3月31日現在
資産の部			
流動資産	16,296	15,336	
固定資産	10,377	9,886	
有形固定資産	3,308	3,455	
無形固定資産	83	75	
投資その他の資産	6,985	6,355	
資産合計	26,674	25,222	
負債の部			
流動負債	3,897	3,553	
固定負債	1,533	1,400	
負債合計	5,430	4,954	
純資産の部			
株主資本	22,025	21,381	
その他の包括利益累計額	△1,573	△1,872	
非支配株主持分	790	759	
純資産合計	21,243	20,268	
負債・純資産合計	26,674	25,222	

連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	当年度		前年度
	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	15,848	14,151	
売上原価	10,347	9,873	
販売費及び一般管理費	4,958	4,842	
営業損益	541	△564	
営業外収支	201	272	
経常損益	743	△291	
特別利益	746	52	
特別損失	274	833	
税金等調整前当期純損益	1,214	△1,071	
法人税等 他	△440	△128	
親会社株主に帰属する当期純損益	773	△1,200	

連結決算ハイライト



TOPICS

1.3m幅メディア対応の水性昇華インクジェットプリンタ「XpertJet 1341WR Pro」 高画質とユーザーの利便性を追求したコンパクトモデル

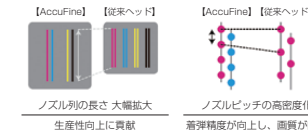
省スペース設計で扱いやすいコンパクトなボディに最新の技術を搭載

新型プリントヘッド「AccuFine」と、新プリントエフェクト「i-screen」の組み合わせにより、高画質と高速作画の両立を実現しています。

新型プリントヘッド 「AccuFine」



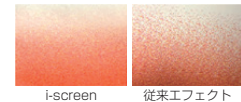
新型プリントヘッド「AccuFine」は、大型化、高密度化、高精度なインク着弾により、高画質と高速印刷の両立を実現。高速時にもバンディングが少なく、高品質なベタ印刷を提供



新プリントエフェクト 「i-screen」



新プリントエフェクト「i-screen」は、新型プリントヘッド「AccuFine」を最適化し、人の目による見え方を考慮したドットの配置にすることでバンディングを軽減、滑らかな作画を実現



展示会のグラフィック、フラッグ、バナー、カスタムインテリアデザイン、
アパレル、オーダーグッズなどに最適なプリンタです。

MUTOH純正RIPソフトウェア「VerteLith™」 EDP Award 2021受賞



MUTOH純正RIPソフトウェア「VerteLith™」が画像処理における高いパフォーマンスだけでなく、印刷工程全体の運用を簡素化・効率化するワークフローソリューション機能の充実が評価され、ワークフローテクノロジー部門において、他の専業および老舗ベンダーのRIPを抑えての受賞となりました。



オリジナルハーフトーン技術 「MUTOH Clear Tone」

PDFの透明効果やドロップシャドウを正確に処理し、滑らかで粒状性を抑えた美しい画質を実現



ワークフローの効率化

「印刷項目」だけでなく「レイアウト情報」も自動処理項目として設定可能

- ・複数のジョブを統合したマルチページPDFを自動で割付けて印刷する機能
- ・割付け位置や、割付け数などの「レイアウト設定」を作成し、登録する機能
- ・厚盛印刷による簡易治具作成機能



簡易治具作成機能で治具作成の手間やコストを削減

2つのプレビュー機能

設定ミスの防止、メディアとインクの節約、作業時間のロス削減に貢献

- ・印刷した時の「色」をディスプレイ上でシミュレーションする「ソフトプルーフ」機能
- ・RIP後の「実際に印刷するドット」をディスプレイ上に表示する「RIPプレビュー」機能

効率的なマルチレイヤー印刷機能

レイヤー設定、ネスティング設定、レイアウト設定の自動処理が可能

- ・マルチページPDFによるマルチレイヤー印刷の自動化を実現

MUTOHプリンタの性能を最大限に引き出し、
お客様の作業の効率化とコスト削減に貢献します。